

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎区第3グループ(田島・浅田・小田)	評価対象年度	平成25年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	こども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	川崎区こども支援室

2. 事業実績

利用実績	<p>1 田島こども文化センター ①年間延べ利用者数 28,888人 ②年間延べ利用団体数 468団体</p> <p>2 渡田小学校わくわくプラザ ①登録者数 242人 ②年間延べ利用者数 13,659人</p> <p>1 浅田こども文化センター ①年間延べ利用者数 25,732人 ②年間延べ利用団体数 1,019団体</p> <p>2 浅田小学校わくわくプラザ ①登録者数 129人 ②年間延べ利用者数 10,263人</p> <p>3 小田小学校わくわくプラザ ①登録者数 151人 ②年間延べ利用者数 10,826人</p> <p>1 小田こども文化センター ①年間延べ利用者数 18,333人 ②年間延べ利用団体数 188団体</p> <p>2 新町小学校わくわくプラザ ①登録者数 159人 ②年間延べ利用者数 8,391人</p> <p>3 東小田小学校わくわくプラザ ①登録者数 147人 ②年間延べ利用者数 8,179人</p>
収支実績	<p>単位:円</p> <p>1 収入 指定管理料 134,747,278</p> <p>2 支出 人件費 116,906,069 事業費 8,942,858 事務経費 11,788,379 その他経費 141,510 合計 137,778,816</p> <p>3 差引 -3,031,538</p>
サービス向上の取組	子どもの意見を最大限尊重し工夫して事業を実施することにより自主性や責任感を育て、地域における健全育成の場として大きな存在となっている。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
<p>(評価の理由) 同一法人が運営する市内施設合同で「マンカラ大会・子どもサミット」「BUNBUNステージ」「子どもサミット」「10周年記念フェスタ」を開催し広く交流した。9館合同では川崎区の特徴である多文化共生をテーマに「スマイルフェスタ2013」「人形劇」、グループ合同行事として「カローリング」「風船/ハレー」「デイキャンプ」に取組み、地域及び世代間(異学年)交流を通じ、地域との連携強化や活性化につながった。各館において地域の方の特技を生かした「将棋」「卓球」「オセロ」「クッキングおふくろ」では地域の大人と子どもが交流を深めながら共に育ち学ぶ機会となった。また、乳幼児を対象とした事業では周辺保育園や地域の方と連携を深め、ヒップホップダンスクラブを立ち上げて活動を開始した結果、乳幼児の利用が大幅に増えた。「卓球部による卓球教室」「高校生による万引き防止紙芝居」では中高生が主体となって異年齢交流を深めた。中学生への利用周知が行き届き、夜間利用が前年比60%増えた館があった。各館で実施している「まつり」「もちつき」等では地域行事としての認識が高まり、地域の方々を始め中高生ボランティアの参加が定着した。</p>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
<p>(評価の理由) 金銭管理・会計手続について適切に行われている。全20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを生かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品・備品の一括購入等の取組みによる経費削減を図るとともに、その剰余金を児童用図書、遊具、遮光・防災カーテン、飛散防止フィルム等の備品購入や施設の整備・修繕による環境整備に充て、利用者に還元している。</p>					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	3	3
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	4	4
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
(評価の理由) 全市的にはかわさきFMでの放送や、各館では毎月のお便りを近隣の小学校や中学校及び関係機関(町会、区役所、社会福祉協議会)等へ配布し周知、ホームページにも掲載した。小学校、中学校、高等学校、スクールサポーター、PTA及び青少年指導員等と連携し、25年度からは地区学校警察連絡会に参加して、地域の青少年にかかわる情報の共有を図った。特別な支援を必要とする児童の一人ひとりの状況に応じた適切な支援を行うことで、他児と自然と遊ぶ様子が増え、思いやりの心を育んだ。保護者懇談会では、「親子工作」「親子クッキング」など親子参加の行事を取り入れたところ昨年より参加者が倍増し、行事を支える保護者ボランティアも7名の協力が得られた。25年度から学校の先生や運営協議会委員、地域住民延べ80名を招いて「わくわくランチ」を年3回実施したことを通じ、わくわくプラザにおける世代間交流が深まり、学校や地域とのより円滑な連携体制が構築された。意見箱に寄せられた利用者から施設の使用方法や物品の収納場所についての改善意見については即利用者の立場に立ち利便性が向上するよう見直し返信を掲示している。日常的な事業や行事の開催に当たっては、より多くが参加できるよう、内容や参加費、開催日・時間の設定等地域性や子どもの様子、保護者の要望を考慮した。					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	3	6
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
(評価の理由) こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正な職員配置を実施の上、特別な支援を必要とする児童については、適宜スタッフを追加で配置した。市が主催する研修や運営法人本部主催の研修、川崎区9館合同やグループごとの研修、館ごとの研修へ多数参加しスキルアップを図った。グループ研修ではAED研修を3会場で行い、緊急時対応のスキルが向上した。中学生生徒指導担当教諭及び各学年の主任担任7名の教諭から「中学生対応」について具体的かつ詳細に学び、次年度以降の情報共有にもつながった。わくわくプラザでは研修としてスタッフ全員が主所属勤務交換研修を行い、スタッフの意識が向上する良い機会となった。個人情報等適正に取扱い、漏えいや紛失の事実はない。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来たすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか	5	4	4
		施設の防犯のための工夫をしているか			
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
(評価の理由) 施設の点検や安全整備をチェックシートを用いて日々行い、必要な修繕や保守を迅速に実施し環境整備に努めた。劣化が見られた非常階段については補修及び塗装を実施した。事故を未然に防ぐため事故事例検討会を11回開催し共有した。防災時対応マニュアルに基づき、各学校と土曜日や長期休業日も含め緊急時対応について体制を共有し、津波を想定した学校との合同訓練を行う等防災体制を強化した。消防や警察との緊密な連携により、地域の防犯・防災情報をより早く共有することができた。各施設、避難経路や危険度が高い窓を優先に飛散防止フィルムを設置し施設の安全性を高めた。さらに全施設に非常食・保存水を追加で配備、新たにアレルギー児対応保存食を備蓄する等災害への備えも強化した。					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

全20グループ53施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、経費の一元管理によって各種研修、記念事業の開催、ノウハウの共有等によってサービスを提供し着実に事業を推進している。
 地域の子どもの状況や運営協議会や関係機関・団体と共有し、連携して課題に対応する体制が構築されている。
 災害対策の強化として施設の環境を整備し、備蓄品を充実させたことは評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、こども文化センター及びわくわくプラザの利用者が安心して利用できるよう環境整備やスタッフの資質向上を図るとともに、利用者にとって各施設がより地域に根付いた居心地の良い場所となるよう努めること。